



分析装置の前で説明を受ける党愛知県議団(左側6人)

中小企業の開発支援

ものづくり中核施設を視察

愛知県議団

公明党愛知県議団(鬼頭英一団長)は、このほど、同県のものづくりの中核施設として、豊田市と瀬戸市に整備が進む「知の拠点」を訪ね、今日14日オープン予定の「あいち産業科学技術総合センター」(豊田市)を視察した。

同センターは、産学官の連携強化とともに、新技術の研究・開発をめざしている。特に科学と物理の分野で、大学の研究シーズ(新技術の種となる基礎的な研究の成果)の実用化に向けて共同研究を行う。企業、大学、公的研究機関の研究者がワンフロアに集まる「愛知モデル」と呼ばれる方式を取り入れて

いる点も特徴。また、高度な計測分析や評価が可能な最新の機械を導入。それを扱う専従職員やコーディネーター(調整役)を配置することで、自前では分析を行う予算や技術を持たない中堅・中小企業の開発支援にも力を注いでいくという。

鬼頭団長らはこうした説明を受けた後、関係者に対し、高度な施設の機能を最大限に活用するよう、研究者の質の向上や人員の確保とともに、同センターで開発された知的財産を守る態勢づくりを要望した。

このほか、一行は同センターと併設される2012年度に利用開始予定で、ナノ(ナノは10億分の1)レベルの構造解析などに用いられる最先端の中部シンクロトロン光利用施設(仮称)も視察した。